美方高校新聞

発行所
福井県立美方高等学校
新聞部
編集責任者
新聞部
印刷所
〈有〉鳥居印刷所

第５０回美方高校卒業証書授与式

飛び立とう希望あふれる未来へ

三月二日、春の訪れを感じる良き日、第五十回美方高校卒業式が挙行され、百五十名の卒業生が学び舎を巣立つ。今年の卒業式はコロナ感染予防のため、在校生は各教室でのリモート参加となった。三年生と直接会って言葉を交わすことは叶わない。様々な思いが込み上げ胸がつまるが、スクリーン越しに先輩方の晴れの姿を目に焼きつけたい。今年度は三ヶ月間の休校に始まり部活動大会の中止、日常生活の制限と例年のような思い出づくりは難しかった。そんな中でも明るく前向きな三年生は、下級生から厚い信頼を寄せられていた。

卒業生の進路状況は、四年制大学四十七名、短期大学二十名、専門学校三十四名、就職二十七名（二月十九日現在）。卒業式に先立ち三月一日、学校表彰が行われた。この制度は三年間の在学中に輝かしい成果をあげた生徒を表彰するものである。また、専門学科成績優秀者の表彰も行われた。

〈皆勤賞〉二十五名

〈スポーツ・文化・学術研究の部〉　全国大会で優秀な成績を収めたボート部の七名

岸本唯佳、久保倫太郎、菅原陸翔、田辺翔万、青池未緒、重田航希、前田大和

〈財団法人全国産業教育振興中央会優良卒業生〉

生活情報科　今井葵

〈県産業教育振興会優良卒業生〉

食物科　　蛭子海凪

〈全国高校商業高等学校協会成績優秀者〉

生活情報科　坂向佳子

〈全国高等学校家庭科技術検定成績優秀者〉

生活情報科　辻北恋愛

食物科　　山田真凜

山口順子

三年学年会全員集合　（第一体育館にて2020.12）

受賞者のコメント

【ボート部代表　岸本さん】

先生やサポートしてくださった周りの方、部員の皆のお陰。本当に感謝している。日本一が目標で、勝利に貪欲になることをモットーにしていた。チーム内の負けず嫌いなライバルと高め合える環境だったから良い成績が収められたと感じている。後輩達にはとにかく上を目指して全国の舞台を楽しんでほしい。

【今井さん】

三年間の努力が報われて嬉しい。優良卒業生の名に恥じないよう、これからも精進したい。卒業後は神戸国際大学経済経営コースに進む。簿記などの技術を活かし、よりレベルの高い資格を取得したい。

【蛭子さん】

まさか自分が選ばれるなんて。光栄に思っている。三年間では弁当販売が一番印象に残っている。介護施設の調理師になるため、食物科で学んだ技術を活かしたい。

卒業生アンケート

①三年間情熱を注いだこと

一位　部活動

・日々の練習・自分の限界に挑戦・技術の向上

二位　美高祭

・雨の中での練習・チームをまとめる経験・シンボルの製作・運営に携わった

三位　研修旅行

・民泊で沖縄文化を全力で楽しんだ・戦争の理解・タクシー研修の計画

他には、受験勉強や毎日の登校、友人関係など。

②今だから笑える失敗談

・後輩だと思って話しかけたら知らない人・寝坊して部活に大遅刻・バンズの靴で大学入試・授業中にズボンが破れる・数学で違う講座を受け続ける・スリッパのまま下校・電車乗り間違い・三階窓から鞄が落ちて雪の中

③高校生活をやり直せるなら？

・フレンドリーになる・もう一度甲子園を目差す・留学する・恋❤・検定を頑張る・バンドを組んで文化祭で演奏・黒歴史を消す・真剣に勉強する・共通テストの答えを暗記して満点をとる・全国大会出場・三年最後の部活動の大会・入学から全てをやり直したい

④将来の夢&就きたい職業

最も多かったのは、看護師や理学療法士等の医療系。次いで教師や保育士等の教育系。

また、食物科からは料理人を志す人が多かった。他にも美容、公務員、スポーツ、建築等様々であった。

⑤メッセージ

（友達へ）

・今までありがとう。・行く道は違うけど頑張れよ！・会える機会は減るけどこれからもよろしくね。

（後輩へ）

・学校行事、部活動、勉強に全力で取り組んでください。・応援しています。・楽しんで！

（家族へ）

・三年間お弁当作りや送迎をしてくれてありがとう。・十八年間育ててくださりありがとうございました。・いつも応援してくれてありがとう。これからも頑張ります。

（先生へ）

・先生のお陰で自分の人生が大きく変わりました。・私達の青春を充実したものにしてくださりありがとうございました。・いろんな場面でたくさんのサポートをありがとうございました。

卒業生の皆さんへ　後輩からメッセージ

今までありがとうございました！卒業しても頑張って下さい。

短い間でしたがありがとうございました。部活では楽しく話してくれて嬉しかったです。これからも頑張ってください。

今まで美方高校を支えてくださってありがとうございました。これからは、自分の夢に向かって精一杯頑張ってください！

美男美女、面白い人ぞろいでした！！4月から新生活頑張ってください！！

今までありがとうございました！これから大変なことも沢山あると思いますが、ここで学んだことを忘れずに全力で頑張ってください♪

分からないことがあると率先してたくさんのことを教えてくださいました。私も先輩方のようになれるよう頑張ります。

3年間お疲れ様でした！文化祭や体育祭などたくさんの行事でお世話になりました。先輩たちのお陰でとても楽しい思い出になっています。新しい生活では何事にも負けず頑張ってください！

ご卒業おめでとうございます！高校3年間本当にお疲れ様でした。この美方高校を引っ張っていってくれてありがとうございました。これから先不安なことがたくさんあると思いますが夢に向かってがんばってください！

今年は色々なことが制限され特に大変だったと思いますがすごく頑張っておられて尊敬しています。助けて頂いたことがたくさんありました。本当にありがとうございました。お体に気をつけてください。

ここに載せきれなかったメッセージは各教室に掲示してありますのでご覧ください。

最後のホームルーム

ペンネーム、と

2年生

「私達の未来」探究学習発表会

未来に繋げる僕らの思い

参加者からの質問にも的確に対応

一月三十日、美浜町生涯学習センターなびあすで、二年生の探究学習発表会が行なわれた。五十グループがＳＤＧｓに関連した探究の成果をいきいきと発表した。昨年十月の中間発表から完成度が上がり、話し方にも自信が表れていた。参加者は来賓、学校関係者、地元中学生ら約二百名であった。

【ステージ発表会①】

『ＶＲを用いた地域活性化』

高校生が観光名所のＶＲ動画を制作し地域の魅力を発信することを町に提案した。ＶＲ動画のメリットは迫力や熱量が伝わる、高齢者や障害者も疑似体験ができる、コロナ禍にも対応できること。具体的にはボートに乗ったスポードを感じられる動画や猫目線の動画等を制作したいと発表した。また、地域活動部の創部を美方高校に提案した。

美浜町長の戸嶋秀樹さんは「次代を担う高校生が地域の課題を見つけて解決しようとしていることに感謝する。形にしてほしい」と評価した。

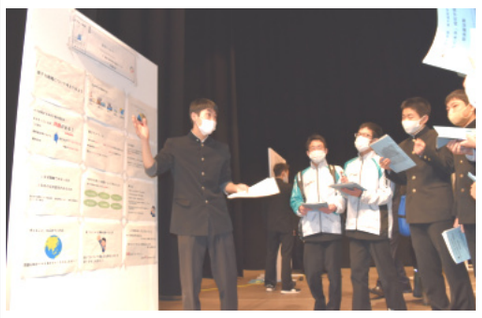
発表後に河原聖司さんは「中間発表の際に受けたアドバイスを今回の発表に活かした。みんなが真剣に聞いてくれてよかった」と語った。

【ステージ発表会②】

『高校生による若狭町の海洋ゴミ対策』（英語による発表）

海辺の地域に住む大谷愛さんは海洋ゴミの被害を身近に見てきた。海に面する七地区長に取材し、海洋ゴミによる悪影響が実際に出ていること、高齢化が進む区にとって海洋ゴミ対策が大きな負担となっていることを知り、考案したのが「子供たちによる海のクリーン大作戦」。企画・運営は高校生ボランティアが行い、小中学生の参加者が様々なイベントとセットで清掃をする。子ども達が楽しみながら海に関わることで、海洋ゴミ問題の知識を深め自発的な行動を呼び起こすことが狙い。この問題は世界で考えなければ解決できないため、多くの人に知ってもらう機会にしたいと英語での発表に挑んだ。

若狭町長の森下裕さんは「海洋ゴミや不法投棄は増えている。持続可能な社会を作るために問題解決が必要。高校生の提案を実現するために両町で支援をしていく」と力強く語った。



『原発について』力説する

発表後に大谷さんは「探究を進めるうちに問題が大規模で一人じゃ厳しいと思ったが続けてよかった」と語った。

【ポスター発表】

『東京オリンピックは開催してもよいのか』

開催のメリット・デメリットについて、スポーツ人口の増加率や経済的損失額、コロナウィルス流行の程度等多方面から検証し「延期が望ましい」と結論づけた。発表者の池田一晴さんと山内慶亮さんは「中間発表時は開催するべきと考えたが、深く調べるうちに自分達の意見も変わっていった」と探究の面白さを実感していた。

『方言は大切にすべきか』クイズを取り入れて

『鳥獣被害を減らすには』

改善策として農作物の管理の徹底、防護柵の設置、害獣駆除を挙げた。中でも駆除した動物がどのように処分されるかに着目しジビエ料理として活かすことを提案し鹿肉の調理方法を紹介した。発表者の岸樹輝さんは「中学生が真剣に聞いてくれて質問もしてくれて嬉しかった」と語った。

福井県立大学の大泉徹教授は「インターネットの情報だけに頼らず、実際はどうなのかと取材やアンケートを取り入れた班が多かった。ＶＲという新しい視点や、英語で世界に発信する大事なチャレンジが素晴らしかった。質疑応答も堂々とできていた。これから大学や社会でも答えのないことへの探究を続けてほしい」と講評した。

【一年生も負けずに探究】

二月十日には一年生の探求学習発表会が本校の各教室で行われた。一人一テーマの個人発表で「日本男児の恋愛事情」「筋トレをすると身長が伸びなくなるのか」「日本・アメリカの給食の歴史」など個性豊かで興味深いテーマが多かった。また二年生からは的確なアドバイスをもらった。これを生かして更に内容を深め、四月にはレポートとして研究成果をまとめる予定だ。

泉ノ原

「人が天から心を授かっているのは、愛するためである」これはフランスの詩人ボアローの言葉だ。コロナ禍の今、世界に求められているのは周りを思いやる愛だろう。愛するために授かった心を今こそ使いたい。

ここで思うことがある。「愛」とは何なのか。ひどく抽象的な言葉のように感じる。百五十年にわたり、世界五十カ国以上の言語の権威ある辞書を編集・発行してきたOxford Languagesは「そのものの価値を認め強くひきつけられる気持」と定義している。百五十年の時を経て導き出された答えにしては、誰かの意見に偏っているようにも感じる。愛にはもっと様々な意味があるはずだ。前述のボアローの言葉は、本来無形の愛に心を使って形（言葉や行動）を持たせ相手に届けるということを示しているのではないだろうか。また、かの有名なマザーテレサは「私達に大きなことはできません。大きな愛を持って小さなことをするだけです」と愛を行動に込めることの大切さを語っている。私は考える、愛をエネルギーにして人間はできているのではないかと。つまり愛とは源なのだ。全ての行動の源に愛がある。炭水化物のように体内でエネルギーとなり人間を突き動かす。また、愛を表現するには心を働かせることが必要だと。そうして届けられた愛は形を変えて世界を巡るのだ。